

浜松観光ボランティアガイドの会

西部地区観光ボランティアガイド連絡協議会「令和元年度研修会」に参加

10月16日(水)午前10時から浜松市天竜区二俣町において、標題の研修会が開催されました。参加者は全体で53名、当会から18名でした。

午前中、二俣協働センター2階ホールにて①開会の挨拶(内山協議会会長)②来賓の挨拶(岡部天竜区長、瀧天竜ふるさとガイドの会会長)に続いて③坪井俊三氏(磐田市文化財保護審議会委員)による「二俣城と在郷町二俣村」についての講演がありました。



研修会講演の様子

講演は、A3用紙8枚の資料が配布され、冒頭「昔作られた資料は、戦略的に平気で嘘を書く場合もあるので、いくつかの同年代の資料と比較が必要」と強調されていました。

主な内容は、i) 三方ヶ原合戦の前哨戦としての武田信玄軍による二俣城攻撃内容や武田軍の侵攻経過等、ii) 戦いに参加した武士名や使用武器、iii) 商業的性格の在郷町二俣城下の様子、iv) 二俣村の六斎市の様子と秋葉道中記、v) 二俣川の流れと川口村の様子、vi) 清瀧寺絵図等についてでした。

13時から2班に分かれ、現地研修を行いました。各班に5名の「天竜ふるさとガイドの会」会員が引率し、要所を説明していただきました。

私は、第2班のコースを選び約4.5kmを徒歩で移動しました。コースは、二俣協働センター⇒清瀧寺(井戸櫓・本堂・信康廟)⇒本田宗一郎ものづくり伝承館(外観)⇒ヤマタケの蔵⇒クローバー通り(二俣の旧街道)⇒光明電鉄駅ホーム跡⇒阿蔵トンネル⇒栄林寺⇒二俣協働センター(解散)でした。

クローバー通りには、店蔵(小松屋)、一産山本園(創業明治11年)、座敷蔵(二俣医院)等各種の蔵及び木造三階の建物も残っており、往時の歴史を感じました。

北ブロック 飯塚泰夫



清瀧寺本堂前にて

私は、第1班のコースを選び約1.5kmを徒歩で、残りを自家用車相乗りで移動しました。コースは、二俣協働センター⇒鳥羽山城址⇒二俣小学校⇒二俣城址⇒二俣小学校(解散)でした。

鳥羽山城の展望台に上がると浜北の町が一望できました。ガイドさんの説明では、当時は天竜川とは別に小天竜川があり、鳥羽山城の下あたりで分かれていたとのことでした。小天竜川は、現在の馬込川の元になった川とのことで初めて知りました。治水のため、堤を築く等治水に努力された松野彦助(新原村の庄屋)、袴田甚右衛門(二俣村の名主)等に台風19号で被害がなかったことに感謝!



二俣城天守台

鳥羽山城本丸では、日本庭園(枯山水の石組み)があり、戦国時代の山城に庭園があったことに驚きましたが、武士もストレスが多く、気の休める癒しの場所が欲しかったのかと思いました。12月初旬には、紅葉が素晴らしいとのことでした。

二俣城の石垣は、野面積みで隙間に天竜川の丸石が詰められているとのことでした。山城は、平城と違い足場が悪いし、山上まで石を運び上げなければならず大変な作業であったと思われます。立派な石垣の天守台があるのに、天守閣が無いのは寂しい感じがしました。

北ブロック 中村茂秋

研修部主催座学「東海道を歩こう！（弁天島駅～舞阪駅）」

10月24日(木)午前10時より12時まで研修部主催で標題の座学研修が浜松市市民協働センターで開催されました。参加者は59名でした。

資料を基に研修部員4名が、各項目について講義をされました。項目と担当は、下記のとおりです。



講義の様子

①弁天島海浜公園・山頭火の句碑、②弁天神社、③昭和天皇乗船記念碑については、金澤誠さんが説明。

・海浜公園の赤鳥居は、権現造りで巖島神社と同じとのこと。・種田山頭火の句碑は、平成3年(1991年)建立。・弁天神社は、今切渡船の渡海守(弁財天)幕府の許しを得て宝永6年(1709年)建立。・昭和天皇乗船記念碑は、昭和天皇が昭和5年6月1日に和船に乗り対岸の「中村養鰻場」を訪問された場所に昭和11年建立(昭和5年に静岡県を一週間に亘って行幸された一環)。

④那須田又七顕彰碑、⑤北雁木(きたがんげ)・南雁木・本雁木、⑥西町常夜灯、⑦舞坂脇本陣跡、⑧舞坂本陣跡については小池孝幸さんが説明。

・那須田又七顕彰碑は、舞坂宿の名主兼問屋で海苔養殖の基盤を作り宿場の復興に尽力した那須田又七の功績を讃え、安政5年に建立された。浜名湖産の海苔養殖産業の背景が分かりました。・雁木(がんぎとも呼ぶ)は、江戸時代の湊(350年前に作られた)で300mの間に3カ所作られたもの。当時の重要な場所であったことが想像できます。・西町常夜灯は、文化6年舞坂宿の大半を焼く火事があり、火防の秋葉信仰の高まりから宿内3カ所に灯籠が立てられたもの。この灯籠には、皇大神宮(伊勢)・秋葉大権現(秋葉山)・牛頭天王(ござてんのう)(津島神社)の神名が灯籠の竿の部分に刻まれている。・舞坂脇本陣跡は、旧東海道上で唯一の脇本陣遺構(慶長元年に30番目の宿場となる)。脇本陣は本陣に宿泊や休息ができなかった大名・公家・役人が利用した補助的旅館で、普段は一般旅館として使われていた。又明治42年～昭和13年まで舞坂町役場として、昭和34年医院として使用されていた。・舞坂本陣跡(宮崎伝佐衛門本陣跡)は、当時、門構玄関付き総坪数100坪で、明治天皇が4回休憩に立ち寄られたとのこと。現在遺構はなく標柱のみ。

⑨岐佐神社(きさじんじゃ)、⑩宝珠院(ほうじゅいん)・仲町常夜灯、⑪養泉寺、⑫奉燈山(ほうとうさん)については桶田忠正さんが説明。

・岐佐神社は、延喜式内社(遠江62座の一つ)で由緒あり、明応7年(1498年)明応地震以降の鎮座といわれている。・宝珠院(臨済宗海上山<園照山>)は、応永11年(約600年前)の開基。・養泉寺(曹洞宗海福山)の開基は、寛永4年(約400年前)で本尊は薬師如来、現在の本堂は平成元年(1989年)築。・奉燈山は、昔の灯台跡で舞阪地区では標高の高い所(5m)で、昭和10年までは「魚見櫓」があり、魚の群れを探していた。

⑬舞坂一里塚、⑭新町常夜灯、⑮見附石垣、⑯白王稻荷神社、⑰旧東海道松並木については、谷晃さんが説明。

・舞坂一里塚は、江戸日本橋より68番目で68里(267km)の場所に当たり、旅行者の目印・馬や駕籠の賃金を払う目安となっていた。・新町常夜灯は、舞坂宿三常夜灯の一つで文化12年(1815年)正月に建立。・見附石垣(石は浜名湖周辺のチャート石)は、舞坂宿の入口の2カ所にある。見附は見張り所の意味で六尺棒を持った番人が人馬の監視をしていた。・白王稻荷神社は、舞坂地内3稻荷神社の一つで他に西町十王の宮間稻荷、吹上・正一位稻荷がある。・旧東海道松並木は、全長700mに渡り340本の松が植えられている。慶長9年(約400年前)家康の命令で街道を整備、黒松が植えられたが、正徳2年(約300年前)には石垣見附から馬郡まで約850mに1,420本の松が植えられていたとのこと。



舞坂一里塚

舞阪町(弁天島含む)について、これまでの私の知識は旧東海道松並木のイメージ程度でしたが、今回の座学で得た知識が現地研修会に役立ちました。

広報部 戸塚博詞(西ブロック)

研修部主催現地研修「東海道を歩こう！（弁天島駅～舞阪駅）」

10月31日(木)好天に恵まれた清々しい秋晴れの下、10月24日(木)実施の座学に続いて、現地研修「東海道を歩こう」に60名が弁天島観光協会前に参集した。

座学で事前研修をした見どころを5グループに分け、研修部員の案内により下記のコースを巡った。

弁天島海浜公園・山頭火の句碑⇒弁天神社⇒昭和天皇乗船記念碑⇒那須田又七顕彰碑⇒江戸時代の湊北雁木(きたがんげ)・本雁木(ほんがんげ)⇒西町常夜灯⇒舞坂脇本陣跡⇒舞坂本陣跡⇒岐佐(きさ)神社⇒宝珠院・仲町常夜灯⇒養泉寺⇒奉燈山(ほうとうざん)⇒舞坂一里塚⇒新町常夜灯⇒見附石垣⇒白玉稻荷神社⇒旧東海道松並木。以上、17カ所の散策をしたが、紙面の都合上、すべての個所の感想を述べるのは無理なため、私にとって特に印象に残った個所について述べてみたい。

江戸時代の湊「北雁木・本雁木・南雁木」

雁木(がんげ)とは階段状になった船着場のことで、北雁木は大名・公家・役人が使う渡船場であり、本雁木は武士階級が使い、また、南雁木は庶民と荷物の為の渡船場であった。

北雁木常夜灯石垣の西面に次のような歌が刻まれていた。

“鳶も舞坂天気も静か名のみ荒井の船渡し”



北雁木の常夜灯と標柱

岐佐神社

祭神は、蛸貝比売命(さきがいひめのみこと＝赤貝の神)と蛤貝比売命(うむがいひめのみこと＝蛤の神)。祭神である蛸貝比売命と蛤貝比売命



岐佐神社

は大国主命(おおくにぬしのみこと)の命を蘇らせたという言い伝えがある。因幡の国に美しい姫神がいることを知った大国主命の兄弟は、結婚を申し込みに行くが、大国主命は途中でシロウサギに出会い、そのため姫神の屋敷に着くのが兄達より遅れてしまった。ところが、姫神は一番後から来た心の優しい大国主命と結ばれることとなった。これに怒った兄神たちが陰謀をたくらみ殺そうとする。真っ赤に焼けた大きな石を抱きかかえて大国主命は死んでしまう。大国主命を生き返らせるため、高天原(たかまがはら)から降り立った蛸貝比売命は赤貝の殻を削って白い粉を作り、蛤貝比売命は乳汁を出してその粉を練り合

わせ、大国主命の体に塗ると、みるみるうちにやけどが治まって大国主命は息を吹き返したという物語である。

宝珠院(臨済宗海上山宝珠院)

「海苔商人森田屋彦之丞」と「海苔職人大森三次郎」の供養塔がある。森田、大森の二人は江戸前の養殖技術を伝え、養殖に成功して年に三千両も稼いで、疲弊した宿場財政を立て直したといわれる。また、清水の次郎長一家二十八人衆の一人、“舞坂の富五郎”の墓がある。富五郎は三河の生まれで体が大きくて威厳があり、宿場内でもめ事が起きると駆けつけてその場を治めたと言われる。案内役の研修部員杉本忠久さんが墓前に「富五郎饅頭」をお供えして、皆で合掌をして霊を慰めた。



宝珠院 富五郎墓前にて合掌

旧東海道松並木

遠州七不思議の一つである「浪小僧」の可愛い像があり、そこから江戸方向(東)に歩を進める。



旧東海道松並木 江戸方向を望む

全長700mに渡り340本の松が植えられている。東に向かって左側には千支のレリーフが、右側には東海道五十三次のレリーフが設置されている。舞坂唯一の杉板橋(舞坂橋跡)が架かっていて、水路を覗くと水が南方向から北方向にゆったりと流れていた。

この素晴らしい松並木を枯らすこと無く後世に残すために、車道は廃止して、土の道に戻し、昔の面影を残してはどうだろうか。茶店を設置し、昔の旅装束の貸し出しをして、外国人旅行者にクールジャパンを楽しんでもらってはいかがだろうか。

広報部 小池輝夫(東ブロック)

観光関係優良従業員表彰

10月15日(火)16時より19時30分まで、ホテルクラウンパレス浜松4階芙蓉の間において、(公財)浜松・浜名湖ツーリズムビューロー主催の「令和元年度観光関係優良従事員表彰式・会員の集い」が開催されました。

今年度の浜松地域における観光の発展に貢献されました、ホテル関係(5件)、交通関係(4件)、建設関係(1件)、団体関係(1件)の11団体から、27名の方が優良従業員として表彰されました。



写真左より 稲田・杉浦・金原さん

浜松観光ボランティアガイドの会からは、稲田かつ子さん(10期生・中ブロック)、金原里枝さん(10期生・南ブロック)、杉浦佳一さん(11期生・北ブロック)の3名が受賞されました。表彰にあたりコンベンションビューローの大須賀理事長から、「浜松を“インバウンドの街”、“おもてなしの街”日本一にして、浜松をアピールしていきたい」と挨拶され、表彰者の労をねぎらっていただきました。

表彰されました3名の方は、今後も健康に十分留意され、後輩会員のご指導をよろしくお願いします。

事務局長 鈴木猛二(南ブロック)

10月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。また、この3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》

複数回来場のあった団体			
* 開智望小学校	2回	151名	
* 阪急交通社	5回	83名	
* クラブツーリズム	2回	46名	
3日 木	積志小学校	159名	
4日 金	ワトトチルドレンクワイヤ	35名	
8日 火	笠井小学校	99名	
	志都呂幼稚園	84名	
10日 木	北浜南小学校	62名	
11日 金	曳馬小学校	108名	
	大仁地区保護司会	27名	
17日 木	雄踏幼稚園	55名	
18日 金	入野小学校	92名	
	東陽中学校	90名	
22日 火	愛知大学	28名	
24日 木	東武トップツアーズ	29名	
25日 金	COLA(外国人団体)	30名	
29日 火	ジョージア米サッカーチーム	43名	
30日 水	浜松中部学園	106名	

31日 木	和地小学校	116名
	西都台小学校	43名
*	上記以外に26名以下の団体	472名

《犀ヶ崖資料館》

3日 木	積志小学校	31名
11日 金	曳馬小学校	60名
18日 金	入野小学校	71名
25日 金	特別支援学校	12名

《浜松まつり会館》

4日 金	広沢小学校	153名
9日 水	三条連区教養講座	125名
16日 水	小信中島連区教養講座	73名
19日 土	西市新柳婦人会	40名
24日 木	藤枝市立高洲南小学校	95名
	あきる野市民生児童委員協議会	19名
*	日曜対応(6、13、20、27日)	364名

はままつ案内人会報 212号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946

浜松市中区元城町100-2(浜松城内)

TEL & FAX 053-456-1303

メールアドレス mail@hama-svg.jp

ホームページ http://www.hama-svg.jp/



出演大島 家康くん

出演清原 直虎ちゃん

はままつ案内人

検索